

中国東部沿海開発地域における都市近郊農村の 二元的社会構成

——昆山市張浦鎮張浦村の事例研究——

黒 柳 晴 夫*

Dual Community in Urban Fringes in the Developing Eastern Seaboard of China
—Case Study on Zhangpu Village Society in Zhangpu Town, Kunshan City—

Haruo KUROYANAGI

1. はじめに

一般に都市近郊農村では、産業化や都市化の影響を最も顕著に受け、それまで持続してきた農村社会の生活様式が都市社会の生活様式へと変化していくことが避けられない。なぜなら、第一に工業用地、商業用地、そして住宅用地への需要が都市周辺へと拡大し、そのために農地の改廃が進み、農民の生業である農業の継続が困難になるからである。第二は、農村住民が、それまでの生業であった農業では生活を支えきれなくなり、雇用労働者や給与取得者になって都市的生活者にならざるを得なくなっていくことである。第三に、工場や商業施設の進出に加えて、農村部の住宅地化も進み、都市的生活住民との混住化が進むことである。そして、第四に、それらの結果農村社会の統合を支えてきた様々な社会集団や相互扶助組織の累積構造が崩れて、農村社会から都市社会への変容が進むことである。

これまで農村部だったところでこうした都市化が進むと、①もともと地元生まれ育ち在来戸籍を持つ本地人口に加えて、②本地人口の親族や市内出身者が多くを占めるが、新規に開発された一戸建て住宅（別荘）や集合住宅を購入あるいは賃借して居住するようになった新定住人口と、③農民工のように仕事を求めて外部から転入してきたニューカマーの暫住人口が著しく増加するようになる。すなわち、村や社区の内部で、もともと地元出身者の本地人と、このように出身と居住の経緯を異にする転居者、転入者との混住化が進むことになる。ところが、同じ行政村や社区の住民として居住空間を同一にすることになりながらも、本地人は、暫住人に対して既存の住民組織への参加をめぐって、排他的に対応しているのである。そこで、以下の報告では、混住化が進む張浦社区（旧張浦村）の事例を通してこのような住民間の排他的な社会関係と、それによって形成される行政区内の

* 文化情報学部 文化情報学科

二元的な社会構成の実態を明らかにしてみよう¹⁾。

2. 1980年代末までの張浦鎮の概要

上海市を一大中心地とする長江下流域の東部沿海地域は、開放型経済への転換を早くから成功させ、目覚ましい経済発展を続けてきた中国でも代表的な地域である。本稿で取り上げる昆山市は、図1に示すように上海市の西側に隣接し、1980年代から徐々に開発政策に着手し、90年代末からはさらに拍車を掛け、産業構成が農業中心から第二・三次産業中心の工業都市へと急速に変貌を遂げてきたところである。市内には経済技術開発区も設置され、企業誘致なども積極的に進められてきた。その結果、日系企業などの外資系企業を含む国内外の多数の企業が進出するようになり、市内の労働力需要が急速に増大するとともに居住人口が増加し、都市化が周辺農村部へと拡大してきている。そこで、最初に1990年代初めまでの張浦鎮の概要を、昆山市張浦鎮志編纂委員会編『張浦鎮志』を参考に紹介しておこう²⁾。



図1 昆山市位置図

(出典：百度地図 <http://map.baidu.com/>)

(1) 張浦鎮の沿革

張浦鎮は、図2に示すように市内にある11鎮・開発区の一つで、昆山市政府が置かれている王山鎮の南側に隣接している。王山鎮との境を比較的川幅が広い呉淞江が曲りくねって東西に流れ、また鎮の真ん中を南北に諸天浦と新支浦の両川が流れている平坦な土地である。昆山市南部のいわゆる昆南地区は東の上海と西の蘇州を結ぶ中間にあって古くから開けてきたところで、鎮内には市内中心部と南部を結ぶ昆南道路が通っており、当地は水路と陸路の交通が便利なところである。張浦鎮は、1980年代末に総面積が116.27km²で、25の行政村と1つの市鎮（やや大きな町、小都市）から構成され、総人口は33,038人であった。

張浦は、宋朝時代に昆山縣全吳郷第5保に属し、清朝時代の宣統2年（1910年）から張浦郷と呼ばれるようになった。そして、中華民国以来、区の設立を繰り返し、1958年

に人民公社が設立された。1978年の中国共産党第11期三中全会による人民公社制度の廃止後、1983年に郷の制度が復元されたが、人口規模の増大とともに1988年6月に郷を廃して鎮が設置され、現在に至っている。

張浦鎮は、太湖流域沖積平野の東部に位置する肥沃な田畑に恵まれたところで、四季がはっきりして降雨量も十分あり、かつては「銀張浦」と呼ばれた米や魚の産地であった。しかし、1978年の「社会主義体制」から「資本主義的な」市場経済体制への歴史的な大転換による改革開放政策の実施以降、「農転工」政策によって農業中心から郷鎮企業の推進へと転換が図られるようになり、農業、工業、それとサービス産業の総合的発展の道を歩むようになった。そして1987年5月に、張浦鎮は、蘇錫常（蘇州、無錫、常州）地域における対外開放の衛星郷鎮の1つとして認可されると、工業化の推進には、地元の郷鎮企業に加えて

資金力、技術力、そして経営力に勝る企業の誘致が必要であることが認識されるようになり、そのための土地の改廃が進められるようになった。1988年には鎮の農業・工業・サービス業の三業総生産額は13,455万元に達した。



図2 昆山市内の鎮区分図

(2) 張浦鎮の産業の発展

張浦鎮の経済の基本は、上述したように農業であったが、市場経済体制への移行後の80年代前半から所得の拡大を目指して郷鎮企業が設立されるようになった。90年代には地元の郷鎮企業に加えて技術力、資金力、経営力に勝る企業の誘致が図られるようになり、それが現在の第二・三次産業中心の産業構造へと発展してきた。

開放前には、張浦鎮は水源に満ち溢れ、肥沃な土地であった。しかし、長期に渡る封建制度が桎梏となったことに加えて、河川改修を怠ってたびたび水害を被ってきたこと、さらに「疫病神」の住血吸虫病が蔓延したこと、そして生産方式が旧式になったこと等のために、農業生産は停滞し、農民は不十分な生活に甘んじてきた。開放前の1ムー（畝）当たりの平均生産量は、水稻はわずか200kg、三麦は50kg、アブラナ科の菜種（実）は25kg前後であった。

建国後、農村では土地改革を実施するとともに、生産の互助合作運動を展開して、農業生産が発展してきた。人民公社が設置された1958年には大規模な耕地灌漑水路が建設された。その後も新しく水路を開削し、堤防を作って用水路と土地基盤を整備し、90年代初めまでに新しい機械設備と電力設備を備えた排水と灌漑の施設を34箇所設置してきた。このような大規模な水利工事の推進は、田畑に溜まりすぎた水の排出能力を高め、農業増産のための基礎を築いた。それと同時に、耕作技術の改善も進められ、耕地面積の増大、多毛作農業生産割合の拡大、優良品種の導入、ハイブリット米（交雑水稻）生産の拡大な

どが進められた。また、農業機械化の着実な発展、化学肥料の利用と農薬の使用も進んで、多くの農民は、脱穀、灌漑、害虫駆除、除草などでの農作業で手作業の大きな負担から解放されることができた。改革開放政策への転換後の1983年に農家生産請負制に移行した後、農民の積極的な農業生産が全面的に拡大し、1984年には食糧総生産量が28,688トンに達し、過去最高水準となった。しかし、その後の「農転工」政策によって、農業への投資が減少して、水利施設も老朽化し、化学肥料の不適切な使用も発生し、種々の問題のために農産物生産量は横ばい状態であった。1988年の鎮全体の穀物総生産量は25,033トンで、1ムー当たり平均生産量は、水稻452kg、三麦240kg、そのうち商品とし販売された総穀物量は10,286トンで、人口1人当たりの平均穀物量は361kgであった。

張浦の多くの農業経営は非常に早くから発展し、特に茸の生産は1972年から開始されて以来、年を追って増大した。1976年には菌の培養から育成、栽培、販売、加工までをすべて地元で行う一貫した生産方式が作られた。1987年の茸の栽培面積は19.52万m²、生産量は896.3トンに増大し、1972年の栽培最初の年の実績と比較してそれぞれ47倍と41倍にもなり、16年以来全国の首位を占め、張浦鎮は「茸の故郷」となった。水産業の発展も非常に早かった。1978年から呉淞江沿岸と双洋潭に3つの専門基地と11の村水産基地を設置し、さらに養魚池を2,411ムー開拓した。また、鎮内の1年間の豚の飼育頭数は19,500頭におよび、果樹園の面積は716ムーで、果物11トンが生産され、家禽飼育專業世帯は25戸で、家禽類を7万羽飼育している。

革命による解放後当時、張浦の工業はまだ非常に脆弱で、若干の食糧加工工場や鉄、木、竹などを材料とした零細なハンディクラフトの工場があっただけであった。1958年に人民公社が経営する工場が新設されたが、暴動が起こり、さらに3年後には経営困難に陥った。また、その後も鎮・郷や人民公社が経営する工場が次から次へと設置されたが、そのほとんどが操業停止に追い込まれてきた。1988年までに、張浦鎮内の工業は、機械、化学工業、紡織、食品、建材、プラスチック、印刷、工芸、服飾加工など多くの業種に広がった。当時、全鎮内で79企業が操業しており、そのうち1つの企業は中国と外国が資本を出し合う合併企業で、また2つの企業は外貨獲得を目指した企業で、生産品を欧米各国に輸出していた。企業の従業員は6,432人で農村労働力の33%を占め、1年間の工業生産額は10,077.86万元で、その年の全鎮の農業、副業、工業の三業総生産額の75%を占め、10年前の1978年に比べ34倍に成長した。

工業の急速な発展によって、張浦鎮の中心、現在の張浦社区がある張浦市鎮の開発が促進された。市鎮南端に新呉街道路が建設され、東西に1.3km、南北に0.3kmの新開発地区が造成され、市鎮面積が0.27km²拡大されて0.63km²となった。新呉街は、街路樹が植えられた片側2車線のセメント路面の街路で、両側に商店、銀行、オフィスなどの建物と工場が立ち並んでいる。

3. 張浦社区と社区居民委員会

上述してきた張浦鎮は、改革開放体制への移行当時は前記したように行政単位が25の行政村と1つの市鎮に区分されていたが、その後の人口と世帯の増加などによって、2009年には7つの社区と19の行政村に区分され、それぞれの下に住民自治組織が組織されて

いる。そのなかで、張浦鎮の行政と経済の中心となってきたところが、本報告の調査対象地の張浦社区である。ここは、昆山市の中心王山鎮市城から真南に約10.5kmのところに位置し、鎮内の南側に東の上海と西の蘇州を結ぶ高速道路が走っている。このように地の利を得ていたため、90年代後半から農地を転換して工場、住宅、そして商業施設の建設が急速に進むようになり、それにともなって進出工場で働く労働者の流入が顕著になった。

その結果、現在では張浦社内区では農家が皆無となり、地付きの本地人も貸し間や農外就労で生活するようになってきている。それに加えて、周辺の工場に勤務するか自分で事業を営むため、社区内に建設された一戸建て住宅（別荘）や集合住宅を購入あるいは賃借して転居してきた人びと（新定住人口）と、社区内やその近辺の工場などの仕事を求めて転入してきた農民工のような人びと（暫住人口）が著しく増加し、これらの転居、転入人口が本地人口を圧倒的に上回るようになってきている。

しかし、人民公社後の生産請負制実施時に農地の人数割り配分を実施したように³⁾、人民公社以来の住民の間では、農家間の平等主義が集団成員関係の基本原則とされてきた。したがって、社区内の構成員としてその正当性を保持しているのは、人民公社時代以来の苦節の経験と権益や富の分配を共有してきた人びととその後継親族に当たる本地人であり、具体的にはかつて張浦村の農家だった張浦第1～8組の住民と、その親族などで一戸建て住宅（別荘）や集合住宅に居住している多くの新定住人口である。そのため、とくに新しく転入してきた暫住人口は、このような本地人によって形成されている張浦社会の外に置かれている。そこで、行政単位としての張浦社区のもとに本地人が中心成員となっている張浦社会から暫住人口がどのように排除されているのかに注目しながら、張浦社会の実態を以下に明らかにしてみよう。

(1) 張浦社区の人口と世帯

張浦社区は、かつての行政村張浦村に相当し、東を鎮政府と宝覚街、南を海虹路、西を銀河路、そして北を規十一路で囲まれた面積2.6km²の長方形に近い形状をしている。張浦村には改革開放体制に移行するまで人民公社が組織されていたが、人民公社時代の初期の頃村は北組と南組の2組に分けられ、1962年当時の世帯数は255世帯であった。開放型経済への転換後、世帯数の増加と郷鎮企業の創設による村の活動の多様化などのために組の再編が行われ、80年代には5組編成になっていた。その後、本地人の世帯と人口の変化は、『昆山統計年鑑』によれば1996年に441世帯の1,299人、2000年に421世帯の1,173人、そして2005年に555世帯の1,508人と、2000年以降増加が目立つようになった。このような世帯数の増加にともなって、90年代に1組と2組から6組が、5組から7組が、さらに3組から8組が順次分割されて8組編成になった。

開発開放体制への移行が始まる前後の1975年から79年にかけて、村の農地の一部を転用して7つの郷鎮企業が設立され⁴⁾、村民に兼業の機会を与えてきた。その後村の周辺に加速度的に工場が進出するようになり、上記のように2000年前後から村内の人口増加が顕著になってきた。それにともなって村内の住宅需要が高まってきたため、この時期から鎮、村、そして民間のディベロッパーによる住宅団地の開発が進められるようになった。そのなかで、鎮は、1988年から集落西側に鉄筋コンクリート造りのアパート（集合住宅）の建設を進め、ここに村の近辺で漁業や船運業に従事していた船上生活者を優先的に入居させ

た。かれらは、90年代からの急速な工業化と自動車の普及にともなう漁業環境や船運需要の変化によって、転業を余儀なくさせられたからである。さらに、2003年からは村と鎮の他に民間ディベロッパーも加わって、集落周囲の農地の転換地や、集落内の空き地や宅地の改修地に一戸建ての住宅団地や集合住宅の建設を進めてきた。

張浦村では1982年10月に人民公社制から生産請負制に移行した。上述のようにその前から郷鎮企業を設立したりしたため、張浦村の当初の農地は1,259ムーから870ムーに減少していた。しかし、その後も工場用地や住宅用地のために農地の改廃が進められ、2003年までに870ムーの農地に加えて103.1ムーの自留地もすべて無くなった。

このように張浦村の農地は全滅することになった。そればかりか、第1～8組の住民が住民自治組織の村民委員会のもとで継承してきた張浦村に、船上生活者だった第1～3組の新村住民と、一戸建ての住宅団地や集合住宅に入居してきた住民が、新たに加わることになった。こうして混住化が進むことになった結果、鎮政府の指導によって、これらの新しい住民も加えたコミュニティーを新規の行政単位とすることになり、張浦村は2006年に張浦社区に再編された。それにともなって、新たな住民自治組織として張浦社区居民委員会が組織され、その下部の住民自治組織として、従来の小組に加えて、住宅団地や集合住宅に居住する新定住民を対象に居民委員会が組織されることになった。

2009年4月の張浦社区の世帯数と人口数は、本地人口が1,646世帯の3,784人であるが、その他に暫住人口約6,500人を数え、総人口が約1万人を超えるほどになっている⁵⁾。表1に示したように、2009年8月14日現在の世帯数は1,821世帯、人口数は4,132人となっており、また、社区内は、旧張浦村の8組と前水上生活者の新村3組の小組組織の他に、住宅団地やアパートごとに居民委員会が組織されている。

(2) 張浦社区居民委員会

張浦社区居民委員会は、張浦鎮政府下の末端行政単位の一つ張浦社区の住民自治組織である。張浦社区の役所は、2010年1月末に新張浦小学校の北北東約500m、第4組北側の京東路沿いに建設された新庁舎に移転した。敷地がかなり広くなり、敷地内に3階建ての庁舎、それに接して運動遊具の置かれたミニ公園、その他に2階建ての貸しオフィスが庭を挟んで庁舎をL字型に囲むように建てられている。新庁舎の建設費は、昆山市政府が

表1 張浦社区の人口と世帯数

小組・居民委員会	世帯数	人数
張浦小計	445	1,189
張浦第1組	84	194
張浦第2組	58	150
張浦第3組	}	65
張浦第8組		
張浦第4組	}	85
張浦第5組		
張浦第7組	}	93
張浦第6組		
新村(全3組)	153	508
居民委員会小計	1,223	2,435
藍波湾小区(中層集合住宅)	162	350
銀鹿新城小区(中層集合住宅)	178	413
上海星城小区(一戸建て団地)	72	160
益閔花園小区(一戸建て団地)	71	178
浦江北新村小区(5階建集合住宅)	115	260
他の中・小規模アパート(全19箇所)	625	1,074
合 計	1,821	4,132

資料：張浦社区政府（2010年8月14日現在）

40%，張浦鎮政府が40%，そして張浦社区が20%をそれぞれ負担した。新庁舎には、共産党張浦鎮張浦社区支部委員会，昆山市張浦鎮張浦社区居民委員会，その他に張浦社区公共服務センター，張浦社区民兵營，張浦社区警務站，そして張浦派出所張浦社区警務室が入っている。

旧張浦村民委員会時代からの役所は，前記したように鎮政府が1988年に第8組の西側に張浦江を挟んで建設した最初の集合住宅団地の北側に接する小工場に並んで建てられた平屋の小さな施設だった。そこが，老朽化して手狭なうえ，駐車場のスペースもほとんどなく，世帯と人口が増大した社区の行政活動に支障を来すようになったことから，新築移転をしたのである。

張浦社区居民委員会は，表2に示すように主任，副主任2名，党支部副書記，社長兼民兵營長の計5名と，この他に婦女主任と無役委員の2名を加えて計7名で構成されている。社区委員長にあたる主任が全体を統括し，副主任2名は主に行政の仕事を担当し，残る2人の委員で民兵營長，会計，農業関係の農業合作社，相談委員である人民懲戒委員を分担して担当している。婦女主任は，女性の計画出産や子どもの成育にかかわる職務を分担し，非常に多忙な委員である。社区居民委員会は，鎮政府の民政局（民政事務所）の下にある行政末端の住民自治組織で，人口，世帯などの掌握を第一の業務としており，社区として所有する土地は持っていない。

民兵營長の主な職務は，18歳から2年間の兵役義務に就く者を選定し管理することである（大学生の場合は夏休みに軍事訓練を受けなければならない）。国が兵役義務者を募集する時期には，その選定の仕事を中心となる。張浦社区ではその他に民兵營長が，上記の社区居民委員会委員の仕事の負担が一部の委員に過重にならないように配分を決めている。

張浦社区の財政収入は，①鎮政府からの交付金と②社区独自の事業による収入との2つに大別される。1会計年度は1月1日から12月31日までの暦年度になっている。2009年度の社区総収入額は2,127,000円で，その内訳は①鎮政府からの交付金が350,000元，②社区独自の事業による収入が1,777,000元であった。2010年度の①鎮政府からの交付金は506,000元と，前年の1.45倍に増額された。他方で，財政支出は，管理費用（例えば社区委員等の人件費と保険金，事務費，水道光熱費，委託費等々），福利基金支出などが主な支出となっている。

上記7名の社区居民委員会委員の任期は，1任期が3年で，主任のみが再任は2期6年までと制限されているが，他の委員に制限はない。委員の選出は，各小組や居民委員会ごとに決められた人数の住民投票代表者を選び，この選ばれた代表者の投票によって選出される。各小組と居民委員会の投票代表者の選出は，それぞれの住民全員の投票を行い，

表2 張浦社区居民委員会役員

姓名	年齢	性別	学 歴	職 名	職務分掌
陳華	36	男	専門学校卒	主任	居民委員会活動の責任
潘雪珍	46	女	大市郷の大市中学卒	副主任	居住関係担当
江風	45	女	専門学校卒	副主任	財務関係担当
趙彬彬	28	男	南京市の東南大学卒	副書記	文教衛生担当
陸素根	59	男	専門学校卒	社長・民営隊長	組織委員

資料：張浦社区政府

50%以上の支持を得た人が代表に選出される。各小組と居民委員会の投票代表者数は、2008年6月に実施された先回の選挙の時には、張浦第1～8組は各組平均4名の計33名、元船上生活者だった新村第1～3組は計12名、そして集合住宅や住宅団地の居民委員会は計32名の合計77名であった。委員選出の投票は、役職名ごとに行われるが、委員の候補者は、現居民委員と投票代表者の代表が相談して決める。投票代表者による居民委員会委員の選挙は、社区住民代表として投票代表者が選ぶ5名の選挙委員の下で実施される。前回2008年6月の場合には、選挙委員のうち2名は前社区居民委員会の主任と会計が選出され、委員長は前主任が担当した。

上記のように張浦社区居民委員会について見てきたが、張浦社區の運営は基本的に社区共產党支部の方針に従って進められる。そこで張浦社區共產党支部の役員を示すと、表3に示す5名で構成されており、党支部役員が前述の社区居民委員会委員と全く同じであり、行政と党が一体となっていることが分かる⁶⁾。

表3 張浦社區共產党支部役員

姓名	年齢	性別	学 歴	職名	職務分掌
陳華	36	男	専門学校卒	書記	支部活動の全責任
陸素根	59	男	専門学校卒	隊長	組織委員
趙彬彬	28	男	南京市の東南大学卒	副書記	規律委員
潘雪珍	46	女	大市郷の大市中学卒	副書記	宣伝委員
江風	45	女	専門学校卒	会計	青年工作

資料：張浦社區政府

(3) 張浦社區の官設的集団

これまで示してきたように、張浦社區においては、社区居民委員会委員の選出に直接的あるいは間接的に参加でき、その活動に関与することができる人たちこそが、社區の住民としての正当性を持っている人びとだと見なすことができる。前掲表1に示した人びとが投票代表者の選出に関与できる人たちである。これらの人びとは、社區住民としての正当性を得ているが故に、また社区居民委員会の下に組織されている上からの官設的な各種の集団に参加し、あるいは参加することが期待されている、ともいうことができる。その組織名と役員を示したのが表4である。これで明らかなように、各種集団の役員が共產党支部や社区居民委員会の役員と重なっており、張浦社區では少数のリーダーによって社區の運営が行われていることが分かる。

表4 張浦社區各種集団と役員

組織名	責任者	委 員
婦人会	会長：唐江霞	委員：金月華・劉建江・陸龍英・陸菊花
民兵隊	隊長：陸素根	教導員：陳華
共產主義青年団	書記：周艷江	副書記：唐江霞
老人協会	会長：盛冬生	副会長：庄杏泉・盛徳全
障害者協会	主席：潘雪珍	委員：江風・唐江霞

資料：張浦社區政府

これらの集団のうちで活動が盛んなのは、一人っ子政策推進の啓蒙活動をしている婦人会と高齢者の集まりである老人協会である。後者についてみると、現会長の盛冬生（74歳）がこの間10年余にわたって会長として同協회를引っ張ってきた。盛冬生は、兄2人姉1人の4人きょうだいの末っ子として1936年に張浦村の現在の4組で生まれ、張浦小学校を卒業した。彼が在学した第二次世界大戦前後当時の張浦小学校の児童数は200～300人ぐらいであった。小学校を卒業後、家で父の農業を手伝っていたが、19歳の時に軍隊に入隊し、その後4年間軍隊にいた。23歳で除隊し、その後甘粛省の王門市にある風力発電所に就職し、26歳まで働いた後張浦村に戻った。老人協会の役員は、会長、副会長等5人で、いろいろ役割を分担している。日常的な活動は娯楽活動で、張浦市民活動センター（旧張浦鎮政府の役所だった施設）を利用して卓球、将棋、その他のレクリエーション活動を行っており、毎回20人ぐらいが参加している。

4. 張浦小学校の移転と新昆小学校

張浦社区住民としての正当性を持っている人びとの児童が通学しているのが、張浦小学校である。同校は、2008年9月の新学期から、集落内の第4組にあった旧校舎から商鞅路と京東路交差点の南側の商鞅路沿いに建設された新校舎に移転した。新校舎は、張浦村集落の第4組の西側の農地を改廃して建設されたもので、その周りも現在住宅団地の建設が進んでいるところである。新校舎は、真白い壁と赤瓦の屋根のコントラストが美しい、しかも窓の大きいモダンな鉄筋2階建ての建物である。学級数は、1～3年は各6クラス、4～6年は各5クラスの合計33クラスと、大規模な編成校である。移転した理由は、①児童数が増えて校舎が狭くなってきたこと、②施設が老朽化してきたこと、③学校西側の通学路が狭くて危険で以前に事故も発生したこと、そして④旧張浦小学校の施設をそのままニューカマーである暫住者の児童が通う小学校として再利用することになったことなどであった。

他方、張浦小学校が移転した後の校舎と施設は、2008年9月から新昆小学校と名前を改めて、農民工などの暫住者の子どもが通う小学校としてそのまま使われることになった。新昆小学校の児童数は800～1,000人ぐらいである。

新昆小学校は、この近辺に仕事を求めて転入してきた農民工の児童が就学する小学校として2005年9月に旧南港郷に開校されたものである。しかし、開校わずか3年目にもかかわらず暫住人口の急増に伴って施設が狭くなっていたところに、張浦小学校の移転によって空いた施設をそのまま利用できることになったために移ってきたのである。これは、昆山市教育局の支持を得て鎮政府が無償で使用を認めたことによるものである。

新昆小学校は、暫住人の子どものみが通う学校で、いわゆる公立の張浦小学校とは異なり、父兄から授業料を徴収し、その金を充てて雇用した教員によって教育や学校経営が行われている。昆山市教育局から、教材など一部の支援が行われているが、基本的には親の自己負担を基本としており、その意味では私立の学校と同じである。すなわち地元住民の子どもには平等の教育の機会が保証されているにもかかわらず、本来の戸籍地から離れて転入してきた暫住人の子どものみにはそれが保証されていないのである。これは、教育における本地人口と暫住人口の間の排他的な二元構成を示している。

ところで、現在の張浦鎮は、張浦村がその中心に位置する旧張浦鎮、その西側に隣接していた旧南港郷、それと南側に隣接していた大市郷が統合してできた鎮である。新崑小学校が最初に設置されたのは、このうちの旧南港郷であった。

5. 張浦社区における本地人口と暫住人口の社会的二元構成

このような急速な開発の推進によって生じてきた問題の一つが、暫住人口いわゆるニューカマーの急激な増加である。かれらは、長江下流域外の地方から就労の機会を求めて流入してきた人びとであり、現金収入を得るという目的以外には、移動先の社会と事前に何らかの關係を持っていなかった人でほとんどが占められている。かれらは、在来戸籍住民によって形成されてきた村落社会やコミュニティー（社区居民委員会）のなかでどのように生活しているのか、それについて張浦村の聴取調査で得た事例を紹介してみよう。

すでに前で触れたように、現在の張浦社区は、かつての張浦村だったところで、人民公社時代から張浦鎮の政府庁舎が置かれて鎮の中心村となってきたところである。しかし、1990年代からの開発ブームのなかで、この村は再開発に乗り遅れ、現在にいたるまで古い住宅が密集した集落がそのまま残っているところである。それは、この村が鎮の中心として商店街を含む大きな住宅密集地を形成してきたために、再開発する場合には関係住宅数が多くて移転補償や移転先住宅建設などに多額の費用を要するばかりか、関係者の合意形成も難しかったからであった。その結果、張浦村は、集落の再開発が手付かずのままに残されてきたため、集落内は密集した住宅が幾重にも連なり、その住宅の間を細い路地が縦横に走り、周りの開発とは無縁のように以前の景観をそのまま留めている。

しかし、現在張浦社区には、先にも触れたように在来戸籍を持つ地元出身の本地人口に対して、その1.5倍以上におよぶ約6,500人の暫住人口が住んでいる。しかし、周りの開発とは無縁のように、農業に従事していた当時の密集した住宅がそのまま残されており、これほどの暫住人口が一体どこに住んでいるのか一見疑ってしまうほどである。たとえば、この6,500人の人が砂地に水を撒くがごとくに張浦村の中にしみ込んで見えなくなっているような状態である。しかし、一端集落の中に入ってからかつての農家だった家々を訪ねると、それぞれの家で家族の使用部屋を除いた

表5 組別調査世帯数

組	世帯数
1組	10
2組	11
3組	12
4組	12
5組	7
6組	9
8組	8
総計	69

資料：2009年7月世帯調査

表6 世帯員数別世帯数

世帯員数	世帯数
2人	13
3人	55
4人	1
総計	69

資料：2009年7月世帯調査

表7 続柄別人数

続柄	人数
戸主	69
夫/妻	67
実子	57
養子	0
継子	0
親	2
義親	0
きょうだい	0
義きょうだい	0
嫁/婿	0
孫	0
その他	0
総計	195

資料：2009年7月世帯調査

部屋という部屋のほとんどがこれらの暫住人口ニューカマーのための貸部屋として利用されていることを知ることができる。

そこで、人民公社時代から農家だった社区住民の生活実態を知るために、2009年7月に張浦第1～8組の計450世帯（調査当時）から、表5に示したように各組から対象世帯が含まれるようにサンプルした計69世帯を調査対象に世帯調査を実施した。これによれば、すべての世帯が暫住人口のニューカマーに部屋を貸しており、しかも各世帯には平均して7～10人前後のニューカマーが住んでいる。また、表6と表7に示したように、調査世帯の平均世帯員数が2.8人であること、しかもその全てが夫婦とその子どもなどの親族であることを勘案すれば、各世帯には同居家族員数の3倍前後の数のニューカマーが住んでいることが分かる。

このように、人民公社時代から張浦村だった地区の全8組、計450世帯からサンプルした計69世帯を対象にして実施した世帯調査によれば、すべての世帯でニューカマーに部屋貸しをしている。そこで、地元生まれ育ったかつての農家とそこに借間しているニューカマーの居住実態を、2つの事例を通して見てみよう。

(1) 王明林の家のニューカマー

まず、具体的な事例の一つとして元共産党張浦村支部書記だった王明林（現在71歳）の家の場合を見てみよう。

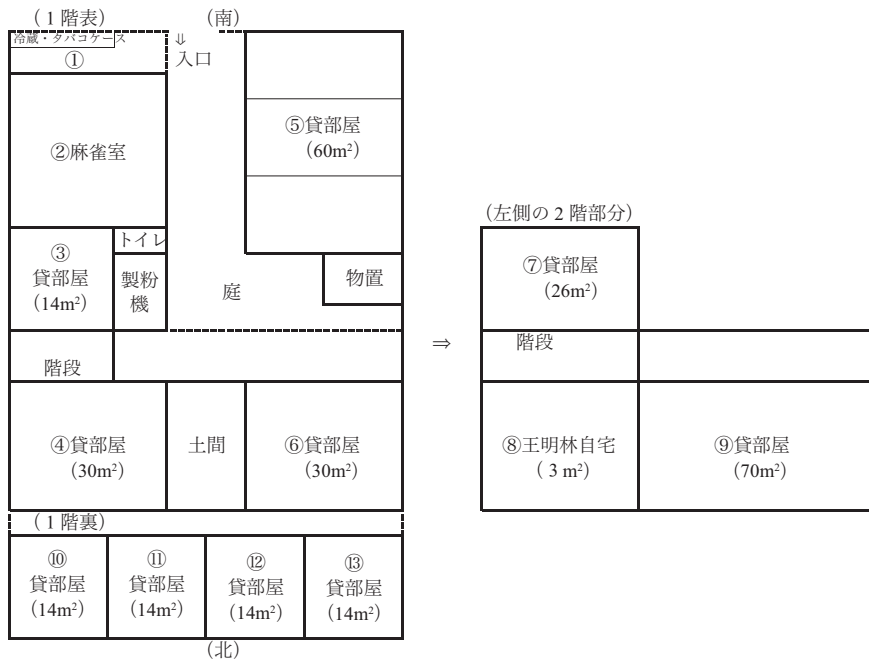
王の家は第4組に位置し、1991年に自宅の一部を2階建てに改築した。そして、2000年頃から息子や娘が結婚や就職で自立したために空いた部屋をニューカマーに貸すようになった。図3に示したのが、現在の王の家の家屋の見取り図と貸部屋の構成である。王の所得源は、(1)年金（この村では、年金額は年額15,000～25,000円で、男は60歳、女は50歳から給付される）の他に、(2)家の前の軒先でささやかに営んでいるタバコと飲料水の小売、(3)その商いをしながら麻雀卓3台の麻雀荘の経営で得る収入、(4)庭先に設置した2台の製粉機を使った賃作業による収入、それと(5)ほとんどの部屋を貸部屋にして得ている貸部屋代である。このうち、年金以外に最も安定し、しかも年金を上回る収入となっているのが後に示すように貸部屋代である。図で分かるように王の家は概ね16部屋あり、そのうちの13部屋をニューカマーに貸している。この貸部屋に、王を除いて、ニューカマーの10世帯、合計23人が住んでいる。その世帯構成を示すと、夫婦世帯が3組、夫婦+子世帯が3組、夫婦+子+母世帯が1組、女性2人世帯が1組、そして男性1人世帯が2組となっており、全10世帯のうち7世帯は配偶者や子どもなどと一緒に住んでいることが分かる。これら10世帯の住人と彼らが借りている部屋などについて若干触れると次のようである（下記文中の丸印の番号は、図中の丸印の番号に同じ）。

〈夫婦世帯〉

④は湖南省出身の夫婦で、30m²の部屋を月額220円で借りている。⑦も湖南省出身の夫婦で、④よりも若干狭い26m²の部屋を借りているが、2階で日当たりが良いため家賃は月額250元と少し高くなっている。⑫は蘇北（江蘇省北部）地方出身の夫婦で、裏の14m²の部屋を月額100円で借りている。

〈夫婦+子世帯〉

⑤は浙江省出身の夫婦と子ども1人の世帯で、商売もできる道路に面した部屋とそれに



貸部屋の場所と広さおよび借間人

- ① 王さんが飲料水とたばこを売っている庇だけの店先
- ② 王さんが経営するマージャン屋。エアコン付きの部屋でジャン卓が3卓おかれている。
- ③ 鎮政府近くの貸店舗で洋装店を営む2女性が住む。出身不明。150元/月、14m²。
- ④ 湖南省の夫婦。220元/月、30m²。
- ⑤ 浙江省の夫婦+子。浴場経営。3部屋計60m²、13,000元/年。
- ⑥ 夫婦+子+母。200元/月、30m²。
- ⑦ 湖南省の夫婦。250元/月、26m²。
- ⑧ 王明林の部屋
- ⑨ 安徽省の夫婦+子。内装店経営。2部屋450元/月、70m²。
- ⑩ 江蘇省北部の男。印刷工場勤務。100元/月、14m²。
- ⑪ 江蘇省北部の夫婦+子。印刷工場勤務。100元/月、14m²。
- ⑫ 江蘇省北部の夫婦。100元/月、14m²。
- ⑬ 安徽省の男。120元/月、厨房付きの部屋14m²。

王さんは自宅に製粉機を2台持ち、料金を取って農家が持ちこむ米や豆の製粉をしている。

図3 王明林の家屋と貸間構成

連なる2部屋の計3部屋、60m²を年額13,000円で借りている。この家族は、通り挟んだ向かいの家の一部を借りて、ニューカマーを客にした銭湯を経営している。⑨は安徽省出身の夫婦で、数名の従業員を雇って内装店を経営している。訪問客などが多いことから、2階の計2部屋、70m²を月額450円で借りている。⑪は蘇北（江蘇省北部）地方出身の夫婦で、14m²の部屋を月額100円で借りている。なお、3世帯とも同居している子どもは1人である。

〈夫婦+子+母世帯〉

⑥の世帯は夫婦と1人の子どもに加えて夫の母親も一緒に世帯で、30m²の部屋を月額

200円で借りている。すでに6年間部屋借りをしており、夫は警備員、妻は工員である。
〈女性2人同居世帯〉

③は2人の女性の同居世帯で、14m²の部屋を月額150円で借りている。2人は2カ月前にここに転居してきたばかりで、ここでは一番新しい間借り人である。大家の王もその出身地を承知していないが、彼女たちは隣の花園村の鎮政府近くにある商店街の一角に店を借り、そこで洋装店を経営している。

〈男性の独居世帯〉

⑩は名前を陳立儀といい、蘇北（江蘇省北部）地方の淮安市出身の54歳で、14m²の部屋を月額100円で借りている。彼は、張浦鎮が始めた郷鎮企業の一つで、いまは張浦村内一の成功者の夏家良が経営する印刷工場に、清掃作業員として8年間勤務している。ここから勤務先の工場までは自転車ですぐで通えて便利なので、知り合いに紹介されて3年前に転居してきた。自分の妻と息子の家族は昆山市内のより中心部に近いほうに住んでいるので、休みの日には妻の所に戻っている。⑬は安徽省出身の男性で、14m²の部屋を月額120円で借りている。この部屋には簡単だが厨房が付いているので、部屋代が少し高くなっている。

以上に、王の家の部屋の間借り人と部屋代について示してきたが、これで明らかのように王の貸部屋の平均月額店賃は2,773元になり（年額33,276元）、貸部屋代の収入がいかに大きいか分かる。言ってみれば、王は、名ばかりの麻雀荘の世話をしながらもっとも大きな収入源である間借り人の管理と出入りの人のチェックをしているのである。

このように王が常に家にいるために、王の家にはニューカマーやその仲介人が、しばしば空き部屋の有無や、部屋の借用条件などについて尋ねてくる。このように部屋借りのニーズが高いのは、もちろん張浦鎮とその周辺で急速な開発のためにニューカマー用の極端な部屋不足が生じているからであることは言うまでもない。また、張浦社区は、鎮の政府役所があり、工場や商店など働く場所にも近くて通勤に便利な立地条件にあるからでもあるが、とくに注目される理由は、再開発が行われていないために住環境はよくないけれども、そのためにかえって部屋代が安く済むという利点があるからでもある。

王は、普通ニューカマーの入居に際して契約書は作らず、入居および家賃の支払い条件はもっぱら口約束でだけで済ませている。村内の他の大家の場合も同様である。また、ニューカマーの暫住届は、当事者自身が派出所に出向き、身分証明書とともに、現住所、大家の名前を届けることになっている。

王の家では、部屋代は毎月徴収し、新入居者の場合は1月後に徴収する。しかし、水道代と電気代の徴収は、会社の水道料金と電気料金の徴収に合わせて2カ月に1回徴収している。王の家では、井戸水は無料で利用させ、水道料金は1トン当たり1元8角で徴収し、また電気料金は、普通の大家が1キロワット（度）当たり1元徴収しているのに対して、割安にして8角徴収している。

（2）孟引根の家のニューカマー

次に、第8組に住んでいる孟引根の家のニューカマーについて紹介しよう。孟は、1948年1月1日生まれの62歳で、現在張浦社区居民委員会の経理を非常勤で手伝っている。孟の自宅は、住宅の建てこんだ細い路地を入ったところにあるが、市河沿いの商店街とバ

ス通りの新呉街が交錯するところに近くて便利な所に位置している。彼の自宅屋敷の面積は193.6m² (16m × 12.1m) あり、この屋敷に図4に示したようにL字形をした総2階建の家が建っている。この家は、父親によって1978年9月に建てられた家を壊して、1985年12月に孟がそのあとに鉄筋入りのレンガと木を建築材にして建てたものである。1階は30m²の部屋が4部屋と15m²の部屋が1部屋の合計5部屋あり、2階も同様の造りの5部屋がある。息子2人は結婚して昆山市内に住み、1人娘も同じ社区内に嫁いでいるため、このうち2階の4部屋を孟夫婦が使い、残り6部屋をニューカマーに貸している。

孟の家の貸部屋6室に住んでいるのはすべて夫婦の6組、12人である。それぞれの夫婦世帯について簡単に触れておこう。

①は安徽省出身の夫婦で、30m²の部屋を月額200円で借りており、既に2年住んでいる。

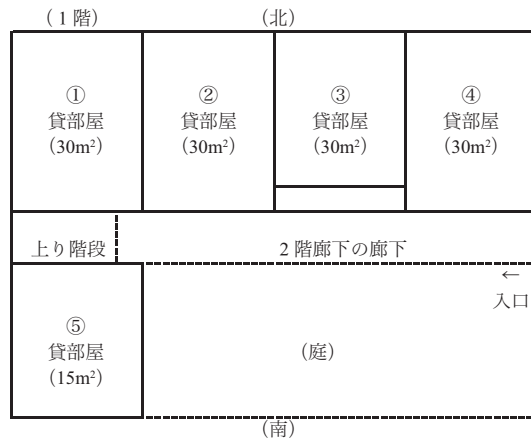
②は江蘇省の出身の夫婦で、既に3年住んでおり、30m²の部屋を月額200円で借りている。

③は湖北省出身の夫婦で、30m²の部屋を月180円で借りている。部屋の前に小さな入口の間があって、生活する部屋が実質的に若干狭くなっているために部屋代が割安になっている。既にここに3年半住んでいる。

④は江西省出身の夫婦で、30m²の部屋を月額200円で借り、既に3年住んでいる。

⑤は武汉大学出身の③の息子とその恋人で、1年前から15m²の部屋を月額200円で借りて住んでいる。2人は両親同様に湖北省の出身である。

⑥は安徽省出身の夫婦で、2階にある30m²の部屋を月額200円で借り、既に6年間住んでいる。



貸部屋の場所と広さおよび借間人

- ① 安徽省の夫婦。2年。部屋30m²、200元/月。
- ② 江蘇省の夫婦。3年。部屋30m²、200元/月。
- ③ 湖北省の夫婦。3年半。部屋30m²、180元/月。
- ④ 江西省の夫婦。3年。部屋30m²、200元/月。
- ⑤ 湖北省の夫婦。1年。部屋15m²、200元/月。
- ⑥ 安徽省の夫婦。6年。部屋30m²、200元/月。
- ⑦ 孟家自宅(娘が利用)。部屋30m²。
- ⑧ 孟家応接間兼物置。部屋30m²。
- ⑨ 孟家自宅(夫婦利用)。部屋30m²。
- ⑩ 孟家厨房。部屋15m²。

図4 孟引根の家屋と貸間構成

上に示したように、孟の家の貸部屋代の月額、5部屋が月額200元、1部屋が月額180元の総額1,180元となっており、孟家でも収入の多くを貸部屋代に依存していることが分かる。孟にとっては、いったん部屋を貸間用に改修してしまえばその後はほとんど投資をすることもなく安定して現金収入を得ることができるのである。周辺の急激な開発によって、近辺に労働力を必要とする工場や商店が次々と出現してきたため、自らあるいは仲介業者に頼んで入居人を探す労をとる必要もないのである。

したがって、孟の家の貸部屋に住んでいるニューカマーはいずれも自分で部屋を探しに来た者ばかりで、仲介者に斡旋されて来た者はいない。また、入居しているニューカマーの仕事、職場、出身地などはまちまちで、それぞれの入居者が個人的な伝手から得た情報をもとに農家の間借先を選択しているのである。したがって、ニューカマーの人たちは、入居後も互いに親しく相談しあったりすることなどはほとんどない。ニューカマーが、孟や前記の王の家の例のように農民の貸部屋（農民房）を比較的長期にわたって利用するのは、会社や業者が斡旋するいわゆる農民工用の賃貸アパート（商品房）の家賃よりもはるかに安価な家賃で借りられるからである。

6. おわりに

調査地の昆山市張浦鎮張浦社区はかつての張浦村だったところである。ここは、上述してきたように、鎮政府の開発政策の推進によって2000年前後から村の内外で工場の進出と住宅開発が進み、農地が壊滅して従来の農業を生業としてきた農家の生活が激変してきたところである。それと同時に、賃金労働者を中心とする都市的生活人口の著しい増加、とりわけ農民工に代表される暫住人口ニューカマーの急激な増加によって、在地の在来戸籍住民との混住化が進んできた。そこで、上述の事例分析を通してこれらのニューカマーの生活実態を考察し、ニューカマーが、同じ社区内に居住をしながらも、地元の在来戸籍住民と異なった社会的な生活空間に住んでいることを明らかにしてきた。

その事例として、王明林と孟引根の家のニューカマーの実態を紹介してきた。まず、気づくことは、同じ農家に部屋借りをしているニューカマー同士が、職場が同じ、出身地が同じ、あるいは親戚関係にあるなどというように何らかの共通する属性や関係を持ち、それが借部屋選択の契機となって入居を決めている例が極めて少ないことである。このように、入居前に相互に社会的関係がほとんどない場合が多いために、入居後もニューカマー同士が親しい関係を築くことはなく、したがってニューカマーとして互いに共通の利害や関心に基づいて組織的に何かに取り組むこともほとんど見られないのである。あくまでもニューカマーは、いわば点として個別に大家である農家の家主と向き合っているのであり、相互に連携して、したがって面として家主と向き合うことは決してないのである。また、ニューカマーは、あくまでも一時的な居住者で、暫住登録者にすぎないのであり、したがって行政の対象としても影の薄い存在になっている。さらに、彼らは、部屋借りして住んでいる張浦社区のコミュニティーの活動にも参加していないし、社区居民委員会の下にある小組の構成員にも入れられていないのである。つまり、ニューカマーは、在来戸籍住民と同じ場所で生活をしていながらも、コミュニティー構成員の活動にかかわりを持つことを期待されていない人たちなのである。したがって、この張浦社区では、物理的に同

じ空間に生活の場を持ちながらも、貸部屋の家主である在来戸籍の人たちによって形成されている集落社会と外来のニューカマーの人たちが点のように散在している社会とが、あたかも水と油のように上下に混じり合うことなく併存していると言うことができる。

もちろん、ニューカマーの急激な増加は、社区のコミュニティーに様々な問題をもたらしている。たとえば、まず①ゴミが増加し、その収集を担当している鎮政府の負担が増加している問題がある。つぎに②治安が悪化してきた問題がある。治安悪化の例として、張浦社区でも、ニューカマーが急増してきた2000年ごろから盗難や家賃を払わないで逃亡するケースが目立つようになってきた。したがって、③それを抑制するために警察署員の他に聯防隊を組織し、その隊員の雇用が鎮全体で200～300人程に増加し、その結果人件費の負担が増加してきた問題がある。また、④これまでニューカマーの転出入が激しかったために正確な人口把握ができない事態が続いてきたが、暫住登録を推進して正確に人口把握を進める問題がある。そして、⑤このようにニューカマーの人口把握が難しい中で、女性に婦人検査を定期的に受診させて生育政策を確実に推進することも問題である。

最後に、旧張浦村の再開発が遅れている理由について触れておこう。

現在鎮政府は、張浦鎮を昆山市内南部の中心地へと発展させるために城郷一体化政策をスローガンとして掲げている。その一環として、張浦鎮内の中心部に位置する張浦社区の再開発計画も具体的に動きだしているのである。現在、張浦社区の各組で開発への意向調査を実施中である。従来の開発独裁的な上からの強制的な開発推進が関係住民の強い反対を惹起してきた苦い経験から、現在制度が改められて、開発には関係住民の80%以上の同意を得ることが必要となったからである。現在、張浦第1～8組で80%以上の賛成を得ているのは3組だけで、集落の再開発には否定的な意見が強い。若い世代は、農業を生業としていた時代の住宅と住環境が給与生活をしている者には適合的ではないとして好まず、再開発を望む傾向にある。しかし、他方高齢者は、集落の再開発でかつての農家の転居先として用意される農民用集合住宅などのアパート（商品房）に移ることを望まない。それは、現在の住居で貸間を生業にすることができるからであり、また、住宅地（宅基地）を持っていれば、自分で家を建てて貸部屋業や商品販売ができるからである。

注

- 1) 本稿の調査内容は、平成20～22年度日本学術振興会科学研究費研究補助金 基盤研究(B) 研究課題「大規模開発にともなう中国の都市近郊地帯における地域再編」（課題番号20320129、研究代表者 季増民）の研究成果の一部である。本稿の研究に関連した内容については、すでに「中国東部沿海開発地域における開発と人口流入—江蘇省昆山市における工業化と地域人口構成の変化に関する事例を中心に—」（『椋山女学園大学研究論集 社会科学篇』第41号 1-17頁 2010.3）と「中国昆山市張浦鎮張浦村の聴取調査ノート」（椋山女学園大学『文化情報学部紀要』第9巻第2号 103-114頁 2010.3）にも発表しているので、参照されたい。
- 2) 昆山市張浦鎮志編纂委員會編『張浦鎮志』（1992年7月刊）1～3頁参照。
- 3) 農業請負制の実施の際の土地の配分については、1生産組織の総面積を、老人、赤子も全て人数に加えた総人口で割って面積を決めた。本調査対象地の張浦村では、第1回の農地配分が1982年10月に、また第2回の農地配分が1998年7月に実施された。張浦6組の場合には、1人当たりの配分面積は、第1回の配分では0.95ムー、第2回の配分では0.5ムーであった。

- 4) 1975年に張浦鎮が最初の会社を張浦村に設立した。それは、プロパンガスボンベを製作する昆山鉄瓶会社工場で、従業員数は最高424人であった。その後、1978年に織物会社、翌1979年に建築会社、プラスチック会社、おもちゃ会社、それと印刷会社が、いずれも村内に設立された。その後も鎮が企業を設立したが、現在はいずれも民間に払い下げたり、閉鎖されたりしている。
- 5) 張浦社区役所内の掲示資料による。
- 6) 現在、張浦社区の共産党員は91名である。党支部役員の選出の方法は、まず党鎮支部の関係者が社区にきて聴取の上で6名以上の候補者を決める。その候補者全員の名前が印刷された投票用紙の中から、支部党員が5名に印をつけて投票する。その投票結果のうち得票が50%以上の候補者の中から、鎮の党幹部が党支部の役職者を決める。党支部役職者の任期は3年である。